テキサス州議会議事堂樹木 ガイド

テキサス州議会議事堂の敷地内にある、深い歴史や重要な意味を持つ樹木についてのガイド

州議会議事堂敷地の略歴

1839年にテキサス州議会議事堂の永久所在地として区画された議事堂敷地は、州内でも有数の古い歴史を持つ庭園を擁します。このエリアは、1849年にはオースティン市民のレクリエーションの場として使用され、最も古い州立公園のひとつとなりました。1852年、ギリシャ復古調でデザインされた白石灰岩の小さな州議会議事堂の建設工事が敷地の中央で開始されました。

1850年代、キャピトルスクエアがあった岩だらけの丘陵地帯にはライブオークを含む自生の植物や野生の花が点在しているのみでした。議会は1856年、「掘抜き井戸の掘削および議事堂敷地の改良・美化…」のために1万ドルを割り当てました。この法令では「井戸は樹木および低木の植樹に先立って完成され使用可能であること」が必要でした。

井戸は1857年から1859年にかけて掘削されましたが失敗に終わり、1860年代および1870年代は南北戦争とその後のレコンストラクションにより議事堂敷地の改良がさらに遅れました。そのため、敷地は1874年に入念な造園計画が実施されるまでほとんど手入れされることがありませんでした。この造園計画の実施により、議事堂の正面に段丘が設けられ、数多くの花々に加え常緑樹、低木および緑陰樹が植えられました。水の供給を確保するため新しい井戸が作られましたが、この井戸は敷地の南西の角にあったと考えられています。

1881年11月、火災によってギリシャ復古調の議事堂は焼失し、敷地の改良は中断されましたが、1888年に現在のルネッサンス復古調の議事堂が完成した後、整備計画は再開しました。正式な敷地整備計画はダラスの著名な土木技師ウィリアム・マンロー・ジョンソンにより設計・実施されました。整備は1890年初めに完成し、両側に木々が立ち並ぶ議事堂正面のグレートウォーク、石灰岩の縁石で縁取られた緩やかなカーブのある「馬車道」、そして敷地を囲む鉄柵が作られました。

テキサスで初めて行なわれた植樹祭 (Arbor Day) では、リンゴの木1本、観賞用常緑樹数本、そして議事堂正面に2本のライブオークが植えられました。1903年までには、都市美化運動 (全国規模で展開する町の美化運動) がオースティン市全体に大きな影響を及ぼすようになりました。

州議会議事堂敷地には、数十本のアメリカニレ（都市美化運動で好まれた種類のひとつ）を含む数百本の樹木が植えられました。1919年にペカンが州木に制定されたことや、テキサス原産の植物への関心が高まったことにより、ペカンのみならずアメリカシャクナゲやキンゴウカンなどの原産種も多く植栽されました。成長した樹木の一部は暴風雨や寿命により失われました。これらに代わって新たに植えられた樹木の中には、議会の決議により歴史的な出来事を記念したり著名なテキサス人を称えるために植えられたものがあります。

1983年、議会は議事堂と総合土地事務所ビルおよびその所蔵品と敷地を保存・管理・復元するための部署として州議会議事堂保存局を設立しました。1987年、敷地に対して最初に行なわれたプロジェクトのひとつは、並木沿いのニレをより病気に強い品種に変えることでした。1990年代には議員オフィスや会議スペースの追加のために延長部が建設され、歴史の浅い北側の敷地が大きく変貌しました。歴史あるテキサス州議会議事堂敷地の基本計画は1995年3月に作成され、20世紀初頭の頃の外観に復元する作業が完了したのは1997年でした。州議会議事堂保存局は、敷地の管理・保存業務を継続して行なっています。州議会議事堂保存局に関する詳しい情報は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.tspb.state.tx.us>

「議事堂を取り囲む20エーカーの敷地内には数マイルに及ぶ砂利道および舗装道路が四方に伸び、広い車道が議事堂の周囲を巡っています。敷地内には人口池、貯水池、噴水があり、熱帯風の環境の中で水生植物が育ち、無数の金魚が楽しそうに泳いでいます。

多彩な一年草や多年草、あらゆる種類の低木や樹木が豊富に植えられ、モクレン、セイヨウキョウチクトウ、ヤエクチナシ、熱帯産のバナナ、耐寒性のあるライラックやバイカウツギなどの北側諸国産の花木を取り巻いています。さらにギョウギシバ、段丘、草が生い茂る斜面が敷地を覆い、バラエティに富んだ景観を生み出しています。」

『オースティン・スーベニア』（1908年発行）発行責任者W・C・デイ

「文明の発達に伴う需要増加により、テキサスが材木、特に広く一般的に流通している材木をさらに必要とするときが必ず来るでしょう。現在、州内で森林地帯と呼べるのは州のほんの5分の1に相当する3,500万エーカーのみです。この地域が州全体に分布しており、細心の注意をもって管理すれば十分な面積かもしれませんが、実際には森林地帯のほとんどは東部および東南部の郡に集中しています。州内の残りの地域は、クロスティンバース地帯と渓谷や水路沿いの木々を除けば、『広大な無立木の平原』と言えるでしょう。今後100年の間にこの平原地域の人口が増加することは間違いありません。これらの人々が必要な材木を入手できるようにするには、今から植林を行なうことが重要です。」

レスリー・ワグナー博士、州立大学教授会代表

演説「テキサス州植樹祭および森林管理協議会へようこそ」より

1890年2月17日テキサス州議会議事堂にて

樹木の解説

テキサス州議会議事堂樹木ガイドをご利用いただき、ありがとうございます。このガイドは、歴史ある議事堂敷地内に見られる25種類の樹木を識別・観賞していただくために作成されました。トレイルは議事堂南側入口のすぐ外、テキサス州章（State Seal of Texas）よりスタートします。所要時間はおよそ1時間です。地図は表紙の裏側にあります。それでは出発しましょう！

1. 出発点：テキサス州章

テキサス革命終結から3年後の1839年、テキサス共和国は第3回議会で新しい印章を承認しました。新しい印章は空色の背景に白い五光星を配し、星の周りをオリーブとライブオークの枝が囲い、さらにその周りに「Republic of Texas（テキサス共和国）」の文字をあしらったものでした。オリーブの枝は平和を、ライブオークの枝は強さを表わしていたと考えられています。

1845年にテキサスが合衆国に加入すると、「The State of Texas（テキサス州）」に文字が変更されました。このテラゾ製の印章はほぼ全体がテキサス産の石でできており、1936年にテキサス独立100周年を記念して制作されました。

2. クログルミ

学名：Juglans nigra

クログルミは樹高20～30メートルにまで成長する高木で、長い間木工に適した最高のアメリカ産樹木と考えられてきました。リッチなブラウンの色で木目の細かいこの木は、強度と重さがあって固く、加工しやすい上に歪んだり伸縮しにくいので、現在でも家具用として人気があります。

南北戦争中には銃床に使われ、第一次・第二次世界大戦中には銃床だけでなく航空機のプロペラにも用いられました。議事堂の内装の建築や仕上げにはクルミをはじめオーク、松、サクラ、ヒマラヤスギ、マホガニーなどの木材がふんだんに使われています。クルミはまた、上院会議場内の机や最高裁判官の椅子など、議事堂のオリジナル調度品にも使われました。

3. ラクウショウ

学名：Taxodium distichum

ラクウショウは堂々とした姿の針葉樹で、南部の沼地や川床に生育します。沼地では、根から「膝根」と呼ばれる独特のこぶ状の気根が現れます。この膝根は酸素を吸収し、ぬかるみで木を固定する、または春に根の成長を促す役割を持つと考えられています。

テキサス州リーキーにおいて州最大のラクウショウが発見され、テキサス森林局はこれをテキサス巨木登録簿に記録しました。この木は幹の直径が約3メートル、樹高が約29メートルあります。

国内またはテキサス州内で記録となるような木をご存知の方は、以下のウェブサイトを通してテキサス森林局までご連絡ください。

<http://texasforests.tamu.edu>

4. ハナキササゲ

学名： *Catalpa speciosa*

ハナキササゲは中型の木で、樹高は15～20メートル、幹の直径は0.6～1.2メートルになります。葉柄は長く、葉はハート型をしています。葉が成長すると、チューブ状の繊細な白い花が咲き、花がしぼむと小さな種がたくさん入った茶色の長いカプセルになります。このカプセルの形状から、インディアンシガーやスモーキングビーンなどの俗称がつけられています。ハナキササゲは成長が早く、虫や暴風雨、カビなどに傷みやすい木です。

どんな樹木を植えるべきか、または樹木のお手入れや保護のしかたなどについての専門的なアドバイスは樹芸家にお尋ねください。テキサス公認樹芸家のリストは以下の国際樹木学会テキサス支部のウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.ISATexas.com>

5. アメリカハリグワ

学名： *Maclura pomifera*

アメリカハリグワは約15メートルの高さに成長する中型の木です。幹は短く湾曲し、樹冠は枝が四方に広がって丸型または不規則な形を形成します。

クワ科に属し、乳白色の樹液と枝にある丈夫なトゲが特徴です。樹液はかぶれを引き起こすことがあるのでご注意ください。秋には黄緑色の重いボールのような実になります。樹皮は広くて丸いうろこのような小片に分裂しますが、この小片には多量のタンニンが含まれており、かつては皮革のなめし用に使われました。また、根の切りくずを煮出すと黄色の染料が取れ、初期のテキサス入植者は衣類の染色に利用しました。

幹はオレンジまたは黄色で、重さと固さがあり丈夫です。この木の俗称のひとつである「ボワ・ダルク (bois d'arc)」という名前は弓用木材という意味のフランス語で、インディアンがこの木で作っていたことに由来します。アメリカハリグワは鉄条網が発明されるまで広くフェンス用に植えられていました。

6. エンピツビャクシン

学名：Juniperus virginiana

12～15メートルの高さに成長する中型のエンピツビャクシンは、ピラミッド型の密集した樹冠を持ちます。四角い枝には2種類の葉がつきます。ひとつはうろこ状、もうひとつは三角の鋭い針状の葉です。

エンピツビャクシンの幹は香り高く、色はローズブラウンですが辺材は白色です。軽量で強く丈夫なため、加工に適しています。燃料やフェンスの支柱に使われるほか、防虫効果があることから収納タンスや押入れの内張り、戸棚などにも利用されます。また、葉や幹から取れるオイルは香水や薬用に広く使われます。この木の果実は、ヒメレンジャクを含む50種以上の鳥のえさとなります。

7. アメリカニレ

学名：Ulmus americana

優美な大型のアメリカニレは、樹高30メートルまで成長し、東海岸地域から西はダコタ、南はテキサスのコーク郡まで生育しています。特に大きなものには100万枚もの葉がつき、葉の全面積は1エーカー（約4,000㎡）にも相当します。ある植物学者はアメリカニレを「最も高貴な植物」と呼びました。

残念ながら、オーク萎凋病に似た菌であるニレ立ち枯れ病菌が1930年にヨーロッパから持ち込まれ、それ以来アメリカ全土で4,000万本以上のニレが被害に遭いました。テキサスで最初に確認されたのは1970年で、最近では2009年にフォートワースの近くで確認されています。

この樹種は1987年に並木道沿いのニレの植え替え計画の一部としてニュージャージー州から運ばれ植えられたもので、ニレ立ち枯れ病に強い品種が選ばれています。この木は、首都ワシントンのナショナルモールに現在植えられている木と同じ親木から生まれたものです。

8. ポストオーク

学名：Quercus stellata

ポストオークは中型の木で、樹高18メートル、幹の直径0.6メートル以上まで成長します。野生種の樹冠は節だらけの曲がりくねった枝からなり、枯れ枝が何年も付いたままになっているのが普通です。葉は革のように固く、浅裂で十字架のような形状をしています。ポストオークはテキサスに幅広く分布しており、砂質の土壌が特徴の北部および中央部の「ポストオーク・サバンナ」として知られる広大な植生地域に多く生育しています。

オーク材はアメリカで生産される堅木材の約半分を占めています。事実、現在のテキサス州議会議事堂が建設されたときには、長さにして数マイル分の羽目板がオーク材から作られました。オリジナルの404のドア枠および924の窓枠のほとんどにはオークまたは松が使われました。

9. シダーエルム

学名： *Ulmus crassifolia*

シダーエルムは樹高25メートル、幹の直径0.6メートルにまでなる高木です。樹冠は枝が絡み合い、細型または丸型を形成します。下方の枝は下向きまたはほぼ水平に伸びますが、上方の枝は上に向かって真っすぐに伸びます。葉は小さくて、表面はざらざらしており、裏側には葉毛がついています。また葉の根元のサイズは一定していません。

シダーエルムはテキサスでは最も一般的に見られるニレの種類で、表層の厚い小川沿いの栄養たっぷりの土壌から石灰岩質の丘陵地帯の乾燥した土壌まで、幅広い場所に生育していますが、グアダルペ川およびトリニティ川の低地に生育しているものが最も高く成長します。シダーエルムはその耐久性とさまざまな場所で育つ順応性の高さから、街路樹や緑陰樹として広く植栽されています。

10. ナンキンハゼ

学名： *Sapium sebiferum*

ナンキンハゼは樹高9～12メートル、幹の直径0.3メートル程度まで成長する小型で短命な木です。中国原産のこの木は成長の早さ、秋の紅葉の美しさ、そして土壌環境の許容範囲の広さのため、テキサスで広く植栽されています。テキサスでは野生化し、一部地域では他の植物の成長を阻止するなど深刻な害を及ぼしています。事実、この木は非常に侵入能力が高く、テキサス森林局の調べによると、ヒューストン周辺の8つの郡の森林に生育する推定6億6,300万本の樹木のうち1億5,249万8千本（約23%）がナンキンハゼであることがわかりました。

テキサスの自生植物や植物群落を脅かす侵入木本についての詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.texasinvasives.org>

11. モミジバフウ

学名： *Liquidambar styraciflua*

モミジバフウは真っすぐな幹を持つ高木で、樹高は18～24メートルにまでなります。葉はユニークな星型をしており、押しつぶすと芳香がただよいます。秋にはゴールドから真紅まで実にさまざまな色に紅葉します。冬には約3センチのボー

ル型の果実が枝からぶら下がるため、容易に識別できます。たっぷり栄養を含んだテキサス東部の湿った土壌が自生地、オーク材に次いで需要の高い商業用の堅木材です。

南北戦争時代にはモミジバフウの樹脂はガムに加工され、南軍兵士の赤痢の治療薬として使われました。

12. コノテガシワ

学名： *Thuja orientalis*

この木は俗称が示すとおり、中国、韓国、台湾が原産地です。根元近くから枝が伸び、枝から出る細枝がシダのように垂直に広がって成長するところから、灌木または低木のように見えます。中国では、この香り高い常緑の枝は新年のお祝い時の幸運の印として用いられています。

この木をはじめ、議事堂の周辺に生育する樹木の多くはアメリカムシクイ、シメ、タイランチョウ、モズモドキ、コウライウグイスといった小鳥たちの止まり木やえさ場となっています。4～5月および9～10月の期間、これらの鳥たちはコロラド川などの自然の目印を使って夜の間に移動します。上空から見ると、明るい照明に照らされた議事堂の敷地はオースティンのビジネス地区の中で緑のオアシスのように浮かび上がります。オーデュボン協会の地元支部は議事堂敷地内で75種以上の鳥の種類を確認・記録しました。

13. ライブオーク

学名： *Quercus virginiana*

横に広がるように成長する常緑樹、ライブオークは18メートルの高さまで伸び、革のように固い葉と地面近くに伸びる太い枝が特徴的です。ライブオークは長命の木であるため、果し合い、結婚、演説、オークション、条約の締結など、テキサスの歴史の中で多くのイベントがライブオークの下で行なわれました。

テキサス独立戦争中、アラモの砦、サンパトリシオ、およびアグア・ドゥルセ・クリークでのテキサス軍の敗北とゴリアドでのテキサス兵の処刑により、新しいテキサス共和国には暗雲が立ち込めていました。ゴンザレスから撤退した後、最高司令官サム・ヒューストンと400名弱の彼の軍隊は今日「Runaway Scrape Oak」として知られる巨大なライブオークの下で野営しました。翌朝、ヒューストンは兵士たちを集めて、逃げ隠れることが適当だと思ふ者は報いを受けるべきだと述べました。

軍隊は前進を開始し、人数も増えていきました。1836年4月21日、彼らはサンジャシントでメキシコ軍と対峙し、勝利を得ました。翌日、戦場の近くに立っていたライブオークの下でヒューストン司令官はサンタ・アナの降伏を受け入れ、テキサスのメキシコからの独立を確実なものにしたのです。この出来事を描いたウ

イリアム・ヘンリー・ハドルの絵画は議事堂の南側入口のロビー内に飾られています。

14. シュマードオーク

学名： *Quercus shumardii*

シュマードオークは成長の早い木で、樹高30メートル、幹の直径0.6～0.9メートルまで育ちます。樹冠は開いています。シュマードオークは通常、テキサス東部3分の1の地域の湿気の多い森林や小川沿いに、他の硬木に混じって生育しています。

テキサスオークやスパニッシュオークなどの小型の樹種は、テキサス中北部から中部に広がるエドワーズ台地の石灰岩質の丘や尾根でも見られます。シュマードオークは葉の先の部分、葉脈の突端に剛毛があることから、アカガシワの仲間に入ります。また、葉の裏側の葉脈が集まる部分には葉毛が生えています。幹は明るい赤茶色で、木目が細かく、重さと固さがあるため、材木、床材、家具、内装品、高級調度品などに使われ、商業的に重要な樹種です。この樹種はテキサスの地質学者ベンジャミン・フランクリン・シュマード（1820～1869年）にちなんで名づけられました。

15. モモ

学名： *Prunus species*

モモは樹高7.5メートル程度まで成長する低木で、幹は短く、樹冠は丸く広がります。中国原産のこの木は、美しい花と食べられる実のため世界中で植栽されています。

モモの中でもこの樹種は観賞用であり、実は食べられません。葉が現れる前に白またはピンク色をした繊細な花が咲き、春の訪れを告げます。今日、種離れのよい果実がなるものや種離れの悪い果実がなるものなど、さまざまな食用品種が存在します。

ご自宅の庭に適した樹種をお知りになりたい方は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://texastreeplanting.tamu.edu>

16. テキサスサバル

学名： *Sabal texana*

樹木サイズのヤシの中では唯一テキサス原産であるテキサスサバルは、樹高15メートルまで伸び、丸く密集した樹冠を持ちます。大型の常緑樹で、扇型の葉は枯れた後も幹に残りスカートまたはペチコートを形成します。

テキサスサバルはかつて、リオグランデ峡谷下流域に沿って4万エーカー（162平方km）のヤシ林を形成していました。今日、住宅や農業用の土地開発に伴う大規模な整地作業のため、ヤシ林は50エーカー（0.2平方km）以下まで縮小し、そのうち32エーカー（0.13平方km）はブラウンズビル郊外にある米国オーデュボン協会テキサスサバル林保護区となっています。テキサスサバルは観賞用としてテキサス南部で広く植栽されており、北はオースティンまで生育可能です。

17. ヤポンノキ

学名： *Ilex vomitoria*

ヤポンノキは雑木林を形成する小型の常緑樹で、樹高は6メートル、樹冠は低く密集しています。テキサス東部の低地に見られる、湿潤で肥沃な土壌において最もよく成長します。ヤポンノキは北米原産の樹種の中では唯一カフェインを含有し、その果実と葉は古代より下剤として用いられました。

光沢のある美しい緑の葉と淡い色の樹皮、冬の間中実るたくさんの緋色の果実のおかげで、ヤポンノキは観賞用樹木として人気が高まっています。

この木はまた、クリスマス用の飾りとして用いられるほか、鳥の食物源にもなります。ご自宅に植栽する場合は通常サイズ、矮性、しだれるタイプ、実が赤いタイプなどから選ぶことができますが、実がなるタイプをお望みなら雌株を選びましょう。

18. ニワウルシ

学名： *Alnus altissima*

ニワウルシは中国原産の帰化樹木で、樹高18メートルにまで成長します。葉は大型で、中心軸は60センチまで伸びることがあり、小葉は多いときには20組まで分割します。この木は1年に1.8～2.4メートル成長し、種子および根萌芽によって繁殖します。大枝や小枝についた大きな葉痕にご注目ください。

ニワウルシは都会の汚れた場所を好むようで、建物の土台のそばや歩道の割れ目から芽を出したりします。事実、熱帯植物らしい姿と都会を好む傾向から、「ゲッター・パーム」というニックネームが付いています。一説によると、この樹種は絹生産のための養蚕の目的で1700年代にイギリスを経由してアメリカに持ち込まれたとのこと。製糸事業は実を結びませんでした。ニワウルシは観賞用樹木として人気を集めました。

19. ブルオーク

学名： *Quercus macrocarpa*

樹高30メートルにもなる高木のブルオークは雄々しく広がる枝を持ちます。長さ30センチにもなる大きな葉、房毛または「苔状のカップ」に包まれた特徴ある大きなどんぐり、そして末端枝から伸びるコルク状のうねりのある小枝などにより簡単に識別できます。ブルオークの根は深く広範囲に広がり、乾燥した土地でもよく育ちます。

天然資源の保護に対する関心が高まる中、ブルオークを初めテキサスの環境に順応した他の自生樹木の植樹が増加しています。エネルギーや水の節約になるように工夫された造園方法は節水園芸と呼ばれます。節水園芸の原則は、芝を減らす、土地によく順応した自生植物を植える、土壌改良をする、効率的な灌漑を行なう、こまめに管理する、根覆いをする、優れた造園デザインを採用する、の7つです。節水園芸やお住まいの地域に適した植物に関する詳細は、以下のウェブサイトでお住まいの郡のテキサス・アグリライフ・エクステンション・サービス (Texas AgriLife Extension Service) 職員を検索してお問い合わせください。

<http://texasextension.tamu.edu>

20. テキサスハナズオウ

学名： *Cercis canadensis* var. *texensis*

テキサスハナズオウは樹高12メートルという短い幹を持つ低木です。春には小さなピンクの花が枝を覆います。この花は食べられます。花が散るとハート型の葉が現れます。秋には明るい黄色に紅葉し、落葉後は5～8センチの鞘状の果実が枝に残ります。

テキサスには数種類のハナズオウが生育しています。テキサスハナズオウは、テキサス東部に生育する近縁種に比べ、石灰岩質で表層の薄いヒルカントリーの土壌に順応しています。この樹種はロウを塗ったような光沢のある葉を持ちますが、これが水分の蒸発を防ぐのに役立っています。アメリカではハナズオウは1641年以来観賞用として植栽されており、今日では白い花が咲くテキサスハナズオウの種類も出回っています。

21. ペカン

学名： *Carya illinoensis*

1919年に州木に制定されたペカンは成長が早く長命で、樹高30メートル、幹の直径1.2メートルまで成長します。アメリカインディアンは何万年も前からこの木を有効活用してきましたが、ヨーロッパ人による初の記録はテキサスを訪れた探検家、カベサ・デ・バカによるものでした。彼は1532年、インディアンに捕獲されたとき、グアダルペ川沿いで集めたペカンの実を食べることによって飢えを凌いだとされています。

テキサスでは毎年平均2,700万キロのペカンが生産されています。そのうち60%は果樹園で栽培される改良品種で、40%は自生樹木から収穫されるものです。ペカンの栽培方法に関する詳しい情報は、以下のウェブサイトをご覧ください。

22. アメリカスズカケノキ

学名： *Platanus occidentalis*

スズカケノキは長命で、樹高52メートル、幹の直径3.3メートルにもなる大木です。テキサス東部から西はサバラ郡まで、川床や川岸に沿った森林に主に生育しています。樹皮が白いため四季を通じていつでも識別しやすい木です。落葉後は2.5センチほどのボール型の実になります。

スズカケノキは観賞用樹木として広く植栽されており、アメリカスズカケノキとトルコ産のスズカケノキの交配種であるロンドンプレインは、世界で最も広く植栽されている街路樹です。スズカケノキは古代からある樹種で、グリーンランドでは1億年前にさかのぼるスズカケノキの葉の化石が発見されています。さらに古いスズカケノキの近縁種も存在します。ニューヨークでは3億7,000万年前の森林の存在を示す化石が発見されています。これは恐竜が存在していた時代より1億4,000万年も前のことになります。

23. タイサンボク

学名： *Magnolia grandiflora*

南部に生育する中型の木であるタイサンボクは24メートルの高さまで成長し、密集したピラミッド型の樹冠を形成します。この樹種はコースタルプレーンの沼地沿いや高台付近からブラソス川の峡谷にかけての肥沃で湿潤な土壌でよく見られ、美しい葉と花、果実を持つため広く植栽されています。革のように固く、大型で常緑の葉は約2年間落葉しません。白い花びらと中心に紫の斑点のある花は15～20センチの大きさになり、芳香があります。茶色の大きな円錐形の果実は、熟すとたくさんの切り口が開き、絹のような糸に付着した鮮やかな真紅の種を放出します。

モクレンを栽培するには良質の土と適度の湿度が必要です。繊細な浅根を妨害しないよう、枝は地面につくまで伸ばしてあげてください。

24. ザクロ

学名： *Punica granatum*

この低木はまっすぐ上に向かって成長し、樹高8メートルほどになります。イランからインド北部のヒマラヤ山脈までの地域が原産で、その果実はソロモンの時代から食用や調味料として利用されてきました。18世紀、スペイン人入植者がザクロとイチジクをテキサスに持ち込みました。

光沢のある緑の葉は秋には黄色に紅葉します。干ばつや暑さに強く、ユニークな食感や味を持つ実は簡単に収穫できます。晩春から初夏にかけて赤みを帯びたオレンジやクリーム色の色鮮やかな花が咲き、その後には厚い皮に包まれたたくさんの種を持つ実がなります。実がならない品種や矮性品種もあります。

25. サルスベリ (百日紅)

学名： *Lagerstroemia indica*

サルスベリは樹高6メートルほどの低木で、やや角度のある曲がった幹から地面近くで枝分かれすることが多く、樹冠は丸く広がっています。サルスベリはテキサスでは人気の高い観賞用樹木で、垂直の枝から見栄えのする無香の花が群生して咲き、ほとんどの花の開花時期が終わった晩夏に白やピンク、赤、紫の色彩で目を楽しませてくれます。小さな葉は秋に美しい赤に紅葉します。

サルスベリの学名は、有名なスウェーデン人植物学者リンネが友人のマグナス・フォン・ラジェルスドレーム (1696～1759年) の名前から取ったもので、

「Indica」はこの木の原産地である中国から東南アジアにかけての地域を指しています。1989年のクリスマス時期、テキサスに大寒波が襲い、サルスベリの多くが深刻な被害を受けました。このときオースティンでは、気温が華氏-6度にまで下がりました。

26. テキサスマウンテンローレル

学名： *Sophora secundiflora*

常緑低木のテキサスマウンテンローレルは約9メートルの高さに成長し、丸い樹冠を持ちます。テキサスでは小川の川岸や岩の多い斜面、石灰岩質で表層の薄い土壌などで多く見られます。春に豆のような青紫の花が群生して咲きます。その香りはグレープ味のKool-Aidを思い出させます。固い実鞘は種と種の間にくびれがあり、ビーズのような形をしています。

1539年、カベサ・デ・バカはテキサスのインディアンがこの鞘を物々交換に使用していたと報告しました。テキサスでの最も古い痕跡は約1万年前で、ペコス川下流域のボンファイヤー・シェルター付近で見つかっています。花と実はシスチンと呼ばれる毒性アルカロイドを含んでおり、種1粒でも摂取すると嘔吐やけいれんを引き起こし、ときには死に至ることもあります。

27. 並木道のライブオーク

学名： *Quercus virginiana*

議事堂敷地の復元計画の一環として1996年に植樹されたこのライブオークは並木道に並んで立ち、議事堂前の格子模様のコンクリート歩道を木陰で覆います。

テキサスには、アメリカ国内に存在するオークの仲間の約4分の3、58種類中43種類が生育しています。また、テキサスに生育する樹種はアメリカ全土で見られる樹種の約3分の1以上にもものぼります。テキサスには300種類以上という、他のどの州よりも多い樹種が存在します。

ライブオークはテキサスの歴史と住民に深く関わってきましたが、近年はオーク萎凋病の蔓延により危機にさらされています。この病気により、テキサスの72の郡ですでに何十万本ものオークが枯れています。さらに詳しい情報は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.texasoakwilt.org>

ご協力いただいた方々および団体

当ガイドのコンセプトおよびテキスト： John Giedraitis (テキサス森林局)

編集： Douglas Young、Ali James (州議会議事堂保存局)

イラストおよびグラフィックデザイン： Robert O'Brien Design

資金調達補助： 国際樹木学会テキサス支部、テキサス森林局

© 2009, Texas Forest Service